

野鳥たより

—北海道—

第41号

編集・発行 北海道野鳥愛護会

発行年月日 昭和55年11月1日



コキアシシギ 石狩八幡町 昭和55年9月 撮影 萩 千賀

探鳥地案内 2

ウトナイ湖とその周辺の鳥 佐藤辰夫 3

イスカの求愛給餌 北尾 諭 10

探鳥会ほうこく 福移 鶴川 鶴川 10

探鳥会案内 12

鳥民だより 12



も く じ

冬の小樽港

◆位置 小樽市 小樽駅より東へ約0.9km

◆概況 日本海に面する良港で三方

が山々で囲まれ大小の河川が流れこみ、雑穀類の陸揚げが盛んに行われているため、海鳥が採餌や休息のため数多く見られる。

◆探鳥コース 小樽駅でバス又は列車を下車した後は港に向けて真直ぐ10分近く進むと小樽港に到着する。北側からコースをとると、

①北浜岩壁 カモメ類が手宮川から流入する餌を求めて群飛している。カモメ類のうち特にミツユビカモメ、ユリカモメが多く近づいてくる所である。ウミアイサも比較的多い。

②小樽運河北側(手宮側) カモメ類の観察に適している。ウミネコ、ミツユビカモメ、ユリカモメ、オオセグロカモメ、シロカモメ等が運河及び周囲の倉庫の屋根に終日見られる。

③第三埠頭 カモ

探鳥地案内

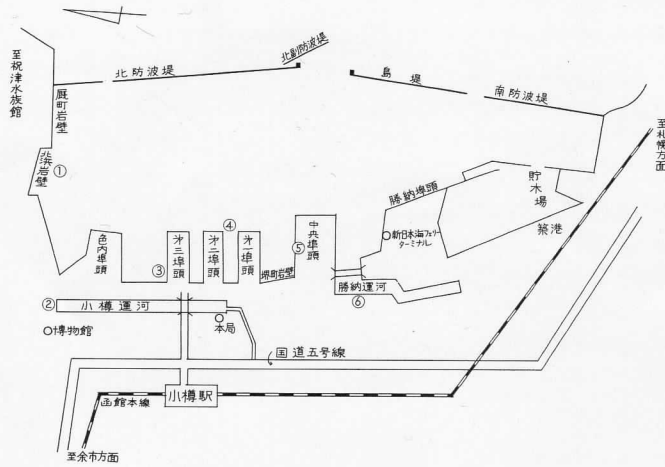
①

すめしたい。ホオジロガモ、クロガモ、コオリガモ、シノリガモ、ウミアイサ、ケイマフリ、ウミガラス、ウミスズメ、ウミウ、カモメ類等。

⑤中央埠頭 コオリガモ、クロガモ、ホオジロガモの大群が間近かに寄ってくるので写真撮影には最も適した所。穀物を陸揚げの際、海中にこぼれたのを求めて集まってくる。車内にいると警戒せずに近づくので写し易い。他にドバト、スズメの群に混ってハギマシコ、アトリの姿も見られることがある。

⑥勝納運河 シノリガモ、ウミガラス、ウミアイサ、ウミウ、ヒメウ等。

※アカエリヒレア シンギは6月上旬に①の北浜岩壁に大群で押し寄せることがある。



小樽市清水町
26の31
中野高明

ウトナイ湖とその周辺の鳥類

佐藤辰夫

1. はじめに

私がウトナイ湖という鳥の学校に通うようになってまだ8年にしかありません。しかしこの間にウトナイ湖はあまりにも有名になりました。ウトナイ湖とのつきあいが深く、その鳥相について私よりはるかに多くの事をご存知の方が大勢いるにもかかわらず、私がウトナイ湖の鳥について語ることはまことに厚顔であり又荷が重いのです。編集者からの突然の話して時間的にも精神的にも余裕がありませんので、ここでは今迄に観察記録された鳥のリストをつくり、それに私なりの簡単な説明を加えるだけに留めたいと思います。

2. 地域の環境

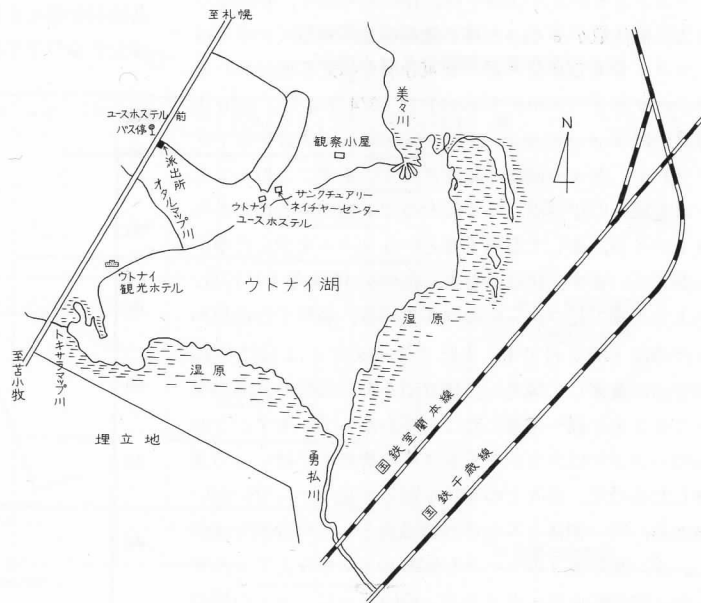
ウトナイ湖は苫小牧の中心部から北東に約12kmはなれたところにある勇払原野最大の湖です。かつて浅海として北海道を二分していた石狩勇払低地帯が、約3,000年前からはじまる海退によって陸化し、海跡湖として形成されたのがウトナイ湖だといわれています。現在のウトナイ湖は北側を国道35号線、南東側を国鉄千歳線と室蘭本線、西側を埋立地によって仕切られています。湖の形は三角形に近く、面積は280ha、湖岸線の延長は約14km水深は深くて1m、大部分は60~80cm位というところですが。水深が浅いため、フトイマヤコモなどの挺水植物が大きな群落をつくり、ヒシやセキショウモ、クロモなどの浮葉植物や沈水植物も豊富で、水鳥にとっては格好のヨシが優占する生息場所となっています。湖の周辺に湿原、ハンノキ、エゾノコリンゴ、イヌコリヤナギ、ハスカップ(クロミノウグイスカグラ)などの低木が散在する草原、さらにその周縁にはハンノキ、ミズナラ、コナラ、ヤチヤナギなどの林があり、草原性の鳥や森林性の鳥の生息場所となっています。また湖の周囲にはいくつかの砂丘が残っておりハマナスなどの海浜植物、さらにはイワブクロ(タルマエソウ)などの高山植物も見られるなど、非常に複雑多様な自然環境となっています。

現在ウトナイ湖とその周囲511haが鳥獣保護区になっており、ここが昨年の日本野鳥の会全国大会において、全国初のバードサンクチュアリーに指定された事はすでにご存知の事と思いま

す。

3. 鳥相の概要

ウトナイ湖とその周辺の鳥類リストは、1973年から1978年まで小山政弘、長井博両氏と共に行なった調査の結果をベースに、1967年から1980年9月までに観察記録されたものを加えて作成したものです。下記の調査報告書のほかに私の知っている未発表の観察記録も加えてあります。1回のみのもも含めて今迄に記録された鳥は実に42科199種(亜種)にものぼります。これは一地域の記録としては非常に多く、本紙35号に載ったトウフツ湖の218種に次ぐものではないかと思えます。この199種(亜種)を生息環境別に大ざっぱに分けると、水辺性の鳥約50%、森林性の鳥約37%、草原性の鳥約13%となります。ガンカモ、シギ、チドリなどの水辺の鳥は種類が多だけでなく個体数においても他の鳥をはるかに凌駕しています。森林性の鳥がかなり多くでていますが、これは樹高が低く樹令も若いとはいえ小規模な林があるからで、個体数はそれほど多くはありません。今年の8月にクマガラが出て、サンクチュアリーの仕事の手伝いに来ていた東京の人達を驚かせましたが、この地方の森林で見られる鳥の大半はこのウトナイ湖周辺でも観察されています。湖に鳥の姿がまばらになる5月から7月にかけて、ウトナイ湖を訪れる人々の目と耳を楽しませてくれるのは草原の鳥達です。本州からのバードウ



ウトナイ湖とその周辺略図

オッチャーの1番のお日当てであるシマアオジをはじめオオジュリン、ホオアカ、ノビタキ、ノゴマ、コヨシキリ、シマセンニュウ、オオジシギなどが我が世の春を謳歌し、各々個性的な衣装で味わいのある歌を聞かせてくれます。これらの鳥は湖の北側と南側の草原に多く見られ、北側ではシマアオジ、南側ではコヨシキリの生息密度が高いようです。

移動習性から見ると、留鳥と思われるものは10%以下で、ここで観察されるもののほとんどが、夏鳥、冬鳥、旅鳥といった渡り鳥である事がわかります。季節的にみると、渡りの交代の時期、さらにシギチドリなどの旅鳥の飛来の時期がかさなるためか、5月と9月が観察される種類の数が多くなります。

4. 水辺の鳥について

① ハクチョウ類

4種(亜種)記録されていますが、コブハクチョウは飼鳥が野性化したものです。1977年5月道南の七飯町大沼から逃げ出したものが7羽飛来してそのまま住みつき翌年から毎年繁殖しています。オオハクチョウはコハクチョウより多く、3月下旬から4月下旬にかけては1,000羽を越えることもあり、毎年300羽前後の個体が越冬します。コハクチョウは秋と春に短期間立ち寄りだけで、ここ数年越冬の記録はありません。今迄個体数は少ないとされてきましたが、ここ数年の観察では100羽以上カウントされる事があり、それほど少なくない事がわかります。1979年4月1日に筆者は25倍のプロミナーの識別可能な範囲で200羽を越えるコハクチョウを見えています。

② ガン類

マガンとヒシクイは毎年秋と春に立ち寄り、春の渡りの方が個体数が多く、3月下旬から4月初旬にかけてはヒシクイで1,000羽マガンで400羽を越える事がります。ハクガン(Snow Goose)は1974年4月、1976年3月にはアオハクガン(Blue Goose、ハクガンの1タイプ)が、各々一回だけ記録されています。このハクガンは宮城県伊豆沼(日本最大のガン類の越冬地)からウトナイ湖、そして石狩平野というコースを飛んだ事がわかっています。伊豆沼を去ったのが1974年4月12日、ウトナイ湖で見つかったのは4月13日、石狩平野に現われたのは5月2日です。またアオハクガンは1975年に伊豆沼に渡来して越冬し、伊豆沼から秋田県の八郎潟をへてウトナイ湖へ飛来したことがわかっています。これらのハクガンはマガンやヒシクイの群の中にはいて飛来したもので、各々その年に1羽しか見つかっていない事から、同一個体とみなされ標識鳥としての役割をはたし、ガン類の渡りのコースを知るヒントを与えてくれました。すでにシジュウカラガンのはいったマガンの群の追跡調査から、ガンの帰化コースとして、伊豆沼—八郎潟

—石狩平野というコースのあることがわかっています。

③ カモ類

18種のうち個体数の多いのはオナガガモ、ヒドリガモ、マガモ、カルガモなどの非潜水性のいわゆる水面採食型のカモで、特にオナガガモとヒドリガモは時期により2,000羽以上にもなります。カモ類が多く見られるのは10月初旬と3月下旬で、全体で10,000羽以上が群となります。潜水性のスズガモ、キンクロハジロ、ホシハジロも秋と春には3種あわせて200羽程度、湖の少し深い中心部で見られます。またカワアイサも多い時には300~400羽位、数の少ないミコアイサも20~30羽程度観察されます。

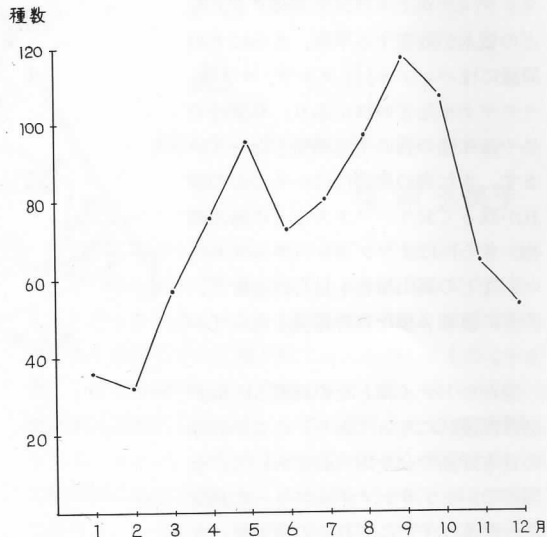
④ シギ、チドリ類

36種記録されていますが、これは予想以上に多い数です。これだけ多くのシギ、チドリが観察されたということは一面では鳥相を豊かにするものでうれしい事ですが、その原因が水位の低下にあるのではないかと考えると喜んでばかりもいられません。シギの中で観察頻度が一番高いのはツルシギで、春は一番乗り、秋はしんがりをつとめます。個体数も多く、9月から10月にかけて100羽以上の群が見られます。珍鳥セイタカシギは2回観察されており、1975年のものについてはすでに本紙第21号に萩千賀氏が書いておられます。1975年5月11日~18日まで鶴川河口で観察され、ウトナイ湖で見つかったのは5月22日ですが、この年北海道ではセイタカシギの記録はほかになく、おそらく同一個体と思われる。

⑤ アオサギ

ウトナイ湖で観察されるアオサギは4kmほどはなれたところにある明野のコロニーのもので、毎年50~60羽が渡来し繁殖しています。今年は5月末にコロニーで最高90羽を越えました。これらのほとんどは11月までには渡去するのですが、ここ10年来少数ながら越冬する個体

月別出現種数



がでています。越冬がはじめて確認されたのは1970年で、この年は2羽、1971年以降は毎年6～11羽、昨年は9羽の個体が越冬しました。

⑥ ウミワシ類

オジロワシとオオワシは毎年両種あわせて15～20羽程度飛来し、湖面がとけはじめる3月には氷上に点々とその姿が見られます。オオワシよりオジロワシの方が多く、また成鳥より幼鳥や若鳥の方が多く見られます。1975年は今迄になくワシの多い年で、3月23日には何んと51羽をカウントするに至りました。

5. あとがき

ウトナイ湖の鳥類というにはあまりにもおそまつなものになりました。鳥類のリストにしても不備な点が多い事と思います。ご指摘いただければ幸いです。

今、勇払原野は巨大な開発の中で次第にその姿を失いつつあり、ウトナイ湖とその周辺はその面影を残す唯一の地域になるのではないかと思います。そして多くの渡り鳥の中継地として、また繁殖地としてその重要性はますます高まる事と思います。すでにこの地域は鳥獣保護区であり、さらにサンクチュアリーに指定されて一層質的に高い保護がなされ、また自然教育の場として積極的に利用されていく事と思います。今、湖のほとりではサンクチュアリーのネイチャーセンターが建設中であり、自然観察路の一部や観察小屋もつくられ、来年春のオープンをめざして着々と準備が進んでいます。このような形あるものの準備だけでなく、質的に内容を充実させていくためにも、今迄この地域でなされた観察記録はどんなものでも無形の財産として、このサンクチュアリーに引き継いでいく必要があるのではないかと思います。こ

の点で、このつたない一文が役に立つならば望外の喜びです。

参 考 文 献

- (1) 藤巻裕蔵・松岡 茂 1972, ウトナイ沼の冬の水鳥類, 北海道自然保護協会誌 (北海道自然保護協会) 第11号
- (2) Fujimaki, Y. & Matsuoka, S. 1972. The birds of Lake Utonai in autumn and winter, 「鳥」, 日本鳥学会, 第21巻, 第91, 92号
- (3) 苫小牧市白鳥保護委員会 1975, 白鳥調査報告書「苫小牧の白鳥」, 第4集 (総集版)
- (4) 苫小牧市 1975, 苫小牧地域植生等調査報告書
- (5) 萩 千賀 1975, セイタカシギ, 「野鳥だより」北海道野鳥愛護会, 第21号
- (6) 横田義雄・星子廉彰・武石全炫・西出 隆 1976, 伊豆沼の雁の帰北コースに就いて (Ⅱ): 石狩平野の雁, 山階鳥類研究所研究報告, 第8巻, 第1号
- (7) 佐藤辰夫・長井 博・小山政弘 1978, ウトナイ沼とその周辺に生息する鳥類 (概報)
- (8) 城殿 博 1979, 壽沸湖周辺の野鳥, 「野鳥だより」北海道野鳥愛護会, 第35号
- (9) 苫小牧自然保護協会 1979, 明野アオサギコロニー調査報告書 昭和53年度
- (10) 苫小牧市 1980, ウトナイ沼南東部自然環境調査報告書
- (11) 北海道 1980, 野鳥生息環境実態調査報告書—ウトナイ沼—
- (12) 小山政弘 1980, ウトナイ湖サンクチュアリーの主人公たち, 「ふいーど」No.3 野外科学出版会

ウトナイ湖とその周辺の野鳥リスト

○ 比較的观察頻度の高いもの
○ 一回のみおよび観察頻度の低いもの

科 名	種 (亜 種) 名	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	備 考
カイツブリ	カイツブリ												○	
	ハジロカイツブリ			○										
	ミミカイツブリ				○									
	アカエリカイツブリ													
ウ	ヒメウ										○			'71 藤巻・松岡(1972)
グンカンドリ	オオグンカンドリ								○					'79 小山政弘氏観察
	サンカノゴイ								○		○			
	ダイサギ													
	チュウサギ													
	コサギ				○									
アオサギ														
コウノトリ	コウノトリ			○										'75 佐藤辰夫観察
ガンカモ	マガン												○	
	ビシクイ												○	
	ハクガン			○	○									'74 4, '76 3, 佐藤観察

科名	種(亜種)名	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	備考
	コブハダチョウ													'77 佐藤辰夫観察
	オオハクチョウ					○				○				
	コハクチョウ													
	アメリカコハクチョウ			○										
	マガモ													
	カルガモ													
	コガモ													
	トモエガモ			○										
	ヨシガモ													
	ヒドリガモ						○							
	アメリカヒドリガモ			○	○							○		
	オナガガモ						○							
	シマアジ													
	ハシビロガモ													
	ホシハジロ													
	キンクロハジロ													
	スズガモ						○							
	コオリガモ				○								○	
	ホオジロガモ													
	ミコアイサ													
ウミアイサ														
カワアイサ														
ワシタカ	ミサゴ			○			○		○	○	○	○		'70 藤巻・松岡(1972)
	トビ													
	オジロワシ													
	オオワシ													
	オオタカ	○								○				
	ハイタカ									○	○			
	ノスリ			○		○					○		○	
	クマタカ										○			
ハヤブサ	ハヤブサ	○		○						○	○	○	○	
	チゴハヤブサ							○	○	○	○			
	コチョウゲンボウ									○				
	チョウゲンボウ									○	○		○	
キジ	コウライキジ											○	'79 羽田恭子氏観察	
ツル	カナダヅル										○	○		
クイナ	クイナ													
	ヒメクイナ									○				
	ヒクイナ										○			
チドリ	オオバン					○								
	コチドリ													
	イカルチドリ													
	シロチドリ							○						
	メダイチドリ								○	○				

科名	種(亜種)名	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	備考
	ムナグロ ダイゼン タゲリ											○	○	
シギ	トウネン ヒバリシギ アメリカウズラシギ ウズラシギ ハマシギ オバシギ エリマキシギ キリアイ ツルシギ アカアシシギ コアアシシギ アオアシシギ カラフトアオアシギ クサシギ タカブシギ キアシシギ イソシギ ソリハシシギ オグロシギ オオソリハシシギ ダイシャクシギ ホオロクシギ チュウシャクシギ ヤマシギ タシギ オオジシギ													'76
	セイタカシギ					○								'75 佐藤 '80 小山氏観察
	ヒレアシシギ													
	トウゾクカモメ					○								'71 小山政弘氏観察
カモメ	ユリカモメ セグロカモメ オオセグロカモメ シロカモメ カモメ ウミネコ ズグロカモメ ミツユビカモメ アジサシ コアジサシ													'79 宮崎政寛氏観察
ハト	キジバト アオバト								○	○	○	○		
ホトトギス	ジュウイチ カッコウ						○							'79 佐藤辰夫観察

科名	種(亜種)名	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	備考
	ツツドリ ホトトギス													
								○						'77小山政弘氏囀り確認
フクロウ	コミミズク フクロウ	○											○	
ヨタカ	ヨタカ													
アマツバメ	ハリオアマツバメ アマツバメ													
カワセミ	ヤマセミ カワセミ									○	○			
キツツキ	アリスイ ヤマゲラ クマゲラ アカゲラ オオアカゲラ コゲラ					○	○		○	○				'80
ヒバリ	ヒバリ													
ツバメ	ショウドウツバメ ツバメ コシアカツバメ イワツバメ						○	○						
セキレイ	キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ビンズイ タヒバリ							○		○				
ヒヨドリ	ヒヨドリ		○											
モズ	モズ アカモズ													
レンジャク	キレンジャク													
カワガラス	カワガラス		○											'67藤巻・松岡(1972)
ミソサザイ	ミソサザイ	○	○											
ヒタキ	ノゴマ コルリ ジョウビタキ ノビタキ マミジロ トラツグミ クロツグミ アカハラ シロハラ ツグミ ヤブサメ ウグイス エゾセンニュウ シマセンニュウ マキノセンニュウ													'76小山政弘氏観察 '76長井 博氏観察

科名	種(亜種)名	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	備考
	コヨシキリ													
	オオヨシキリ													
	エゾムシクイ													
	センダイムシクイ													
	ククイタダキ													
	キビタキ								○					
	ムギマキ										○			
	オオルリ								○					
	サメビタキ											○		
	エゾビタキ								○		○			
コサメビタキ														
エナガ	エナガ													
シジュウカラ	ハシブトガラ													
	コガラ													
	ヒガラ							○			○			
	ヤマガラ					○		○	○					
	シジュウカラ													
コジュウカラ	ゴジュウカラ													
キバシリ	キバシリ		○											
メジロ	メジロ													
ホオジロ	ホオジロ													'77小山政弘氏観察
	シロハラホオジロ										○	○		
	ホオアカ										○			
	カシラダカ			○							○			
	ミヤマホオジロ													
	シマアオジ													
	アオジ													
	クロジ							○	○	○	○			
オオジュリン														
アトリ	アトリ													'69藤巻・松岡(1972) '78小山政弘観察
	カワラヒワ													
	マヒワ													
	ベニヒワ													
	ハギマシコ			○										
	オオマシコ	○												
	ベニマシコ													
	ウソ								○					
	イカル													
シメ										○	○			
ハタオリドリ	ニュウナイスズメ													
	スズメ													
ムクドリ	コムクドリ													
	ムクドリ													
カラス	カケス													
	ハシボソガラス													
	ハシブトガラス													

55年4月15日、午前8時頃、札幌市円山公園の赤松林で、イスカの求愛給餌を観察しました。4月11日にイスカの20羽以上の群を見ていましたので、まだいる可能性もあると思います(ちなみに昨年は5月26、27、28日と3日間見られ

イスカの 求愛給餌

ました)、探していたところ♂1羽♀4羽の小群を見付けました。その中の1羽の♀だけが翼を下げ、盛んにピーピーと鳴きながら、終始逃げ腰の♂の後を追いかけていました。一方残りの♀3羽は、黙々と毬果(松笠)の種を食べ



ていました。この1羽のメスの行動は、自分には不可解でしたが、前後2回に亘って行なわれた求愛給餌を見るに及んで、漸く合点がいきました。

イスカは、ほぼ一年中繁殖し厳寒期でも雛を孵すそうですが、この♀は幼鳥ではなく、完全な成鳥と思われました。私はイスカが求愛給餌するとは知りませんでしたし、又、求愛給餌とは♂が♀の歓心を買う為に愛のプレゼントを贈る行為だと思

っていましたので、♀から強要される場合もあるとは二重の驚きでした。私に新しい驚きの世界を教えてくれたこの積極的なイスカの♀の恋が成就することを、祈ってやみません。

北尾 諭

福 移

55.7.6 8:40~12:20

横 田 円

わたしは、たくさんの鳥を見ていちばんきれいだったのが「ノゴマ」と「ベニマシコ」でした。鳥の声で「トッピカケタカ」となくのが、わたしには「ジョッピカケタカ」と聞こえました。

横 田 マ キ

家の周りにも変わった鳥がくるので、名前を知りたいなあという気持ちから参加しました。

福移にあんなにたくさんの野鳥がいるとは思ってもしなかったです。

借りて用意した双眼鏡は飾り物で、最後までピントを合わせて下さった皆様の望遠鏡を見せてもらいました。

天体望遠鏡のようなあの長いのがすごいですね。子供の身長にあわせて三脚を低くして下さったりで、大変お世話になりました。

鳥の美しさはもちろん印象が強いですが、参加されていた方々の若々しい足どりと、昼食の時間もおしんで鳥を追う姿に感動しました。

(記録された鳥) アオサギ トビ ウズラ イソシギ オオジシギ ウミネコ キジバト カッコウ ヒバリ ショウドウツバメ モズ ノゴマ ノビタキ エゾセン ニュウ シマセンニュウ マキノセンニュウ コヨシキリ オオヨシキリ ホオアカ アオジ オオジュリン



カワラヒワ ベニマシコ シメ コムクドリ ムクドリ ハシボソガラス 27種
解散後 アカモズ アカハラ カイツブリ

(参加者) 清水幸・朋子 清野久子 木下ふじ子 五十嵐優幸 福田三和子・久美子 横田キネ・淳・晋・円 大宮きよ

え 渡辺聖子・春・芽 早瀬広司・富西尾 優 三輪京子 楠 秀雄 鈴木 勇 新宮康生 羽田恭子 飯山五玖子 柳沢信雄・千代子 北尾 諭 高嶋昭英・則子 渡辺紀久雄 曾根モト 谷口一芳・登志 長谷川涼子 野々村菊 35名

(担当幹事) 北尾 諭 羽田恭子

〒065 札幌市東区中沼34-677

鵒 川

55.8.31 9:40~12:30

福 田 久 美 子

探鳥会に参加しはじめ、みる間にその魅力にひかれ、少しずつ名を覚え姿を見つけることが出来るようになりもっと色々な鳥達に出逢いたいと欲が出て、物好きから鳥好きに変容していく様が我ながらおかしくもあるこの頃、2度目の鵒川へやってきました。前日からの大雨洪水注意報にもめげず、8名の鳥好きの方々に仲間入りして、カッパ、長靴の完全防備で小雨、霧雨、時には大粒の雨にあたりながら、双眼鏡を拭き拭き目をこらしてみると、いました、いました、小さな水たまりの中に

10羽程の小鳥の群、アカエリヒレアシギです。クルクルと楽しそうに回りながらブカブカ浮いています。ユーモラスでリズムカルなその動き、そっと近づく人間にも平気な大らかさ、見つめているだけで顔がほころびてきます。雨が顔や髪にしたたててくるのもかまわず、いつまでも立ち去りがたい思いでいっぱいでした。

牧場では馬や牛達が降りしきる雨に背を向け静かに息をひそめてたがずんでいます。その牛達の足元に突然、オグロシギの群が降り立ったのです。河口の餌場は水かさが増しているのです、こんな所にやってきたのでしょうか。20羽程で忙しそうに草むらをつつき歩いています。目の前の私達などまるで気にもとめていないふうに餌探しに夢中になっているのです。もう双眼鏡などかけなくてもはっきり見え、まるで手でふれることが出来そうな程そばへ近づいてくるのです。

晴れた日、雨の日、様々な自然環境の中で、小さな鳥達が懸命に生きている姿を確かに見つめることができた1日でした。

(記録された鳥) アオサギ マガモ カルガモ シマアジ トビ オオタカ チュウヒ コチドリ ムナグロ ダイゼン トウネン アオアシシギ タカブシギ イソシギ ソリハシシギ オグロシギ アカエリヒレアシギ ユリカモメ セグロカモメ オオセグロカモメ ウミネコ アジサシ キジバト ハリオアマツバメ ヒバリ ショウドウツバメ ハクセキレイ ノビタキ スズメ ムクドリ ハシボソガラス 31種

(参加者) 谷口一芳・登志 萩 千賀 渡辺紀久雄 北尾 諭 福田久美子 柳沢千代子 羽田恭子 8名
(担当幹事) 柳沢千代子 羽田恭子

〒031-01 札幌市豊平区月寒東3条19丁目1の4

鵜川海岸行

55.9.21 9:45~14:00

土田光子

もっぱら、十勝平野の野鳥を追っている私にとっては札幌方面への遠征で、鵜川海岸での探鳥会に参加の好機に恵まれた事は、今年の大きな収穫でした。

かねて会いたいと思っていたチュウヒが悠然と羽根をそらせて視界に入ってくれたこと。誰かの、どじょうすくいのはらきを想像するようなアオアシシギの食事、ウズラの模様を盗作したようなアメリカウズラシギ、シマリスの親類だったようなキリアイ、アイシャドーをして気取っているメダイチドリ、ツンとして鼻っばしの強そうなそりぎみの大きな長い口ばしのオオソリハシシギ等々ほとんどが初対面でした。昨年挨拶したはずのトウネンは、衣替えを終えたハマシギと区別がつけられず記憶力の衰えを嘆きました。種の特徴をとらえて、間違なくラブコールのサインを送ることのむづかしさを更に認識し

ました。あのとときの、羽田幹事さんの頭はコンピューターのように見えました。

帰途、海岸線にそって彫刻のような競走馬の放牧を眺め、心地よい車のゆれに身を沈め、カーステレオに心をゆだねて居ました。と、道路ぎわ迄よせている青海原から突然白い大きなものが視界に飛びこんできました。平沼氏と私は、同時に「あっ何だっ」と叫んで急停車しました。まばゆいばかりのオオハクチョウ一羽でした。手の届きそうな距離でした。目と目が合いました。私達は興奮してしまいました。どうしてこんなに早く？、仲間はず？、それとも事故で夏中？、平沼氏のシャッターはうなりました。交通指導車が駐車禁止を告げながら走り去りました。様子町で16時半でした。

襟裳岬の美しい夕景色で興奮を沈め、21時無事帰宅しました。厚い友情に深く深く感謝し、きょう出合った34種の鳥達と夢の中でもう一度会えることを願って床へ入りました。

(記録された鳥) アオサギ カルガモ ヨガモ オナガガモ トビ チュウヒ コチドリ メダイチドリ ダイゼン トウネン アメリカウズラシギ ハマシギ キリアイ ツルシギ アオアシシギ タカブシギ キアシシギ イソシギ ソリハシシギ オグロシギ オオソリハシシギ タシギ ユリカモメ ウミネコ アジサシ キジバト ヒバリ ショウドウツバメ ハクセキレイ ノビタキ カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス 34種

(参加者) 新宮康生 清水幸・朋子・克幸・亜樹子 島田明美 萩 千賀 北尾 諭 土田光子 平沼 裕 鷹田善幸 早瀬広司・富 中山慶子 松野恭子 柳沢信雄・千代子 羽田恭子 谷口登志 曾根モト 長谷川涼子 吉田省三 岩泉ゆう子 23名

(担当幹事) 早瀬広司 羽田恭子

〒080 帯広市西11条北5丁目

コキアシシギの名称について

萩千賀さん撮影の表紙写真と羽田恭子さんの報告にあるコキアシシギという名前は図鑑のどこにも見当たらないのにすぐ気づくことと思います。そのはずで、従来日本では未記録のシギだからです。根室の春国岱で1979年8月に記録・撮影されたのが最初で、今年に入ってから石狩のほか、茨城県鹿島でも観察されています。英名では Lesser Yellowlegs といい、元来北米大陸北部で分布繁殖している種です。日本で未記録(つまり外国産)の鳥の和名が混乱することはよくあり、本種もチュウキアシシギと称している場合もあります(環境庁、1974)。けれども最近はコキアシシギと称する趨勢にあるようです(山階鳥類研究所、1976。高野伸二、1980)。鳥の名称は任意に基づく要素が強く、鳥学会による選定が待たれるところです。(小川 巖)



56年1月までの予定をお知らせします。どうぞご参加下さい。寒くなりますので、防寒の用意をお忘れなく。

＜ウトナイ湖＞

・とき 昭和55年11月16

日(日)午前10時

・集合 ウトナイ遊園地(中央バス、ウトナイ下車)ガン、カモ、ハクチョウなど水鳥の観察

＜小樽港＞

・とき 昭和55年12月14日(日)午前10時

・集合 国鉄小樽駅待合室

今年は船のチャーターが出来ないかもしれません。その場合は、埠頭から港内の水鳥を観察します。船がチャーター出来たときは、船賃がいります。(金額は人数によるので不明)

＜藤の沢＞

・とき 昭和56年1月25日(日)午前10時

・集合 札幌市南区藤の沢2区白鳥園 電591-8317 小鳥の村、小沢氏宅の給餌施設に集まる鳥を室内からみず。

・交通 定鉄バス定山溪線「藤の沢」下車。白鳥園まで徒歩20分。札幌駅から藤の沢までは、約40分、計1時間。

持ち物 昼食、観察用具。

参加費 200円。雪が降っても行きます。

＜野幌森林公園を歩きましょう＞

上記の探鳥会のほか、次のように探鳥散歩を行います。

・とき 昭和55年11月24日、12月7日

・集合 午前8時30分 大麻駅待合室

いずれの探鳥会も、昼食、筆記用具、観察用具をご持参下さい。ひどい暴風雨、暴風雪でないかぎり行きます。

探鳥会についてのお問い合わせは、柳沢 851-6364か 羽田611-0063へ。



コキアシシギの観察

— 日本で2回目の記録 —

羽田 恭子

コキアシシギ 冬羽1羽。観察場所 石狩八幡町排泥池。

日時 昭和55年9月13日。観察者 北尾 諭・羽田 恭子。

・コキアシシギは、54年8月11日、根室春国岱で夏羽1羽の観察記録があるが、日本では2回目の記録と思われるので報告する。

・観察中印象的であったのは、単独行動であり、警戒心がなく、こちらが動かずにいると3mくらいまで近寄ってくる。他のシギ類と同様な採餌行動もするが、嘴を横に規則的にふる(振り子か車のワイパーのように)を繰り返し、ツルシギやアオアシシギの忙しい採餌行動とは、一味違っていた。飛行時は腰が四角

く白く(切り餅のように)アオアシシギ、アカアシシギ、ツルシギのパターンとは、明らかに異っていた。脚は鮮黄色で長く、全体にスマートな感じを受けた。四回の観察中、声は一度も聞かれなかった。

・9月13日、14、17、20日と観察したが、23日には見当らなかった。

・日本の図鑑にはまだ掲載されていない種であるため同定を日本鳥類保護連盟の柳沢紀夫氏にお願いしました。

・9月23日には、コキアシシギの代りに? ハリモモチュウシギ1羽を観察した。観察者、萩 千賀・北尾 諭・渡辺紀久雄・福田久美子・羽田恭子

〒064 札幌市中央区円山西町3-3-26

《編》《集》《後》《記》

今回もまた発行を遅らせてしまいました。何とか本来の発行時期に戻したいと思いつつ実現できず、申し訳なく思っています。私達の編集方針としてメイン原稿の野鳥記録は可能な限り長く続け、会員諸氏の貴重な観察記

録を広く紹介し野鳥保護に役立てたいと考えています。ところが、この種原稿はお願いしてもおいそれと出てくるものではなく、集稿に時間がかかり編集者ももっとも苦勞しているところです。皆様の積極的な投稿を期待していますのでよろしくお願ひします。(小堀記)

〔北海道野鳥愛護会〕 年会費 1,500円 (会計年度4月より) 郵便振替 小樽 18287
〒060 札幌市中央区北1条西7丁目 広井ビル5階 北海道自然保護協会気付 ☎(011) 251-5465